

バスケットボールに挑戦！ “やってみたらできました～！”

JX-ENEOS バスケットボールクリニックプログラム

～都立王子第二特別支援学校放課後子供教室の事例より～



放課後子供教室は、放課後や週末の子供の安全・安心な居場所として、主に小学校等を会場として取り組まれています。その中に都立特別支援学校を会場として実施されている放課後子供教室もあります（平成28年度は13教室）。

今回紹介する都立王子第二特別支援学校放課後子供教室は、“王ニクラブ”というPTAのOBを中心に組織された団体が運営しています。

“王ニクラブ”では、毎年、新しいプログラムを取り入れたいと考え、工夫をしています。今回は、“初めて企業と連携プログラム”、“初めてのバスケットボール”と、二つの“初めて”にチャレンジとのことで取材に伺いました。

● 「バスケットボールクリニック」平成28年6月11日（土）

初夏、爽やかな土曜日の朝、都立王子第二特別支援学校の体育館に、30 家族の参加者が集まりました。王ニクラブが開催する放課後子供教室「バスケットボールクリニック」が始まります。

コーチは元オリンピック選手3名を含む7名です。“クリニック”といっても、バスケットボールを触るのも初めての子どもが多く、ボールを使った遊びからボールに慣れ、次第にバスケットボールらしいパス、そしてゴールへのアプローチとプログラムが進みます。

思うようにボールが相手に届かない、バスケットゴールにボールがなかなか入らない、でも、みんな何度もチャレンジしています。その様子が一番驚いていたのは、企画した王ニクラブの渡辺さん（事務局長）たちです。「コーチの見本の動作を見たとき、“うちの子（王ニクラブの子）たちには無理だあ”と思いました。でも、みんなできていくし、楽しそう。びっくりです！」最初から無理だと思わずに、決めつけずに、今後、ほかにも新しいことに挑戦できる！と自信が湧いてきたようです。放課後子供教室を実施して6年目、また新たな可能性の発見です。

4月に着任した中村校長先生もシャージャ姿で会場へ。「子供教室事業では、様々な社会経験ができるし、いろ



ろな人と出会える良い機会ですね」と子供たちの様子を見守っていらっしゃいました。“初めて”のことが多かったプログラムですが、保護者のほか、近隣の大学生・高校生ボランティア、有志の先生方と多くの方に支えられてプログラムが無事終了しました。



渡辺さん（王ニクラブ）（上）
中村校長先生（下）

大山コーチと小池コーチにお話を伺ってみました。



クリニック専任コーチ
（アトランタ・アテネ五輪代表）
大山さん

Q：バスケットボールクリニックは年間何回くらい実施されますか？対象は？

A：平成27年度は82回です。対象は小・中学生がメインです。

Q：クリニックを通して一番子供に伝えたいことは？

A：体を動かすことの楽しさです。楽しさを実感してもらいたいです。

Q：これまで特別支援学校でのプログラム経験は？印象に残ったことは？

A：今までに3回です。今日も子供の様子を見ながら進めました。

ボールを怖がらずに積極的に楽しんでくれている様子に安心しました。

それと、こんなに素直に私たちのパス回しや動作に驚きの声を上げてくれて、心の底から嬉しかったです。上手いのは当たり前とあまり褒めてもらえないので…。



クリニック専任コーチ
（事務局長兼任）
小池さん

支援企業 JX エネルギー株式会社 URL：<https://www.jx-group.jp/clinic/>

JX エネルギー株式会社は、オリンピック選手を何名も輩出する女子バスケットボールチーム“JX-ENEOSサンフラワーズ”を運営しています。

同社は、社会貢献活動の一環として、チームを引退した選手で専任スタッフを編成し、地域の方々とのコミュニケーションを深めるとともに、バスケットボールの振興に力を注いでいきたいと考え、年間を通じて、“バスケットボールクリニック”に取り組んでいます。